

マッチ箱を使って

『学校』のイメージを豊かに

函館市立湯川小学校 水野 治 明

入学後、子どもたちが学校生活になじんだ頃を見計らって『学校たんけん』の活動が展開されます。「先生、あそこに珍しいものがあったよ」「あの部屋は何をする所かな」「優しそうな先生がベッドのあるお部屋にいたよ」などと、次々に“発見したもの”や“不思議さ”を知らせてきます。

そこで、言葉の表現にとどまらず、つくったり描いたりする活動を通して『学校』をより具体的にイメージさせるために、「床地図+立体」で表現する場を構成してみました。入学したばかりの1年生にとって、立体をつくることはやはり難しすぎます。ですから、そのための材料として、飲食店などでいただけるマッチ箱をたくさん用意しました。マッチ箱に、シールを使って教室などの名前を書いて貼ったり、それを積み重ねるなどの方法なら、1年生でも容易にできます。

子どもが特定の教室にこだわり、部屋の中もつくりたいと願いを持っている時には、ビールやジュースなどの空き箱を利用するのもよいでしょう。子どもの力でも簡単に積み降ろしができますし、後でつけ足すこともできます。活動後の後始末も簡単で、次年度での活用も可能です。

